



視標

イスラエルは2024年、国連パレスチナ難民救済事業機関（UNRWA）の国内活動を禁じる法律を成立させた。施行されれば、UNRWAは1月にも活動を停止せざるを得なくなる可能性がある。ガザの人道支援はできなくなり、東エルサレムを含むヨルダン川西岸で数百万の難民への必要不可欠なサービスが奪われる。

（国連総会決議に基づいて設置された）UNRWAを単独で解体しようとするイスラエル政府の試みに対し、当初わき起った非難や憤りはなえ、政治的無力感に転化した。状況は極めて深刻で時間との闘いが始まっている。最も重要な時に政治的な勇気と指揮力を欠く現状は（国連を中心とする）多国籍システムにとって良くない前兆だ。

何が危機にひんしているのか。それはパレスチナ難民の命と未来そのものだ。教育や医療、他のサービスが受けられなくなる影響は壊滅的で、世代を超えて続くだろう。

（ガザの民間人殺害や医療施設への攻撃など）目に余るジュネーブ条約違反、国連安全保障理事会や総会の決議の完全無視、国際司法裁判所（ICJ）の判断への公然たる反抗に、政治的、経済的、法的な制裁がほぼ科されている現状は、ルールに基づく国際秩序を愚弄するものだ。

ガザとパレスチナ人への戦争は、人権や国際法、残虐な戦争の犠牲者を守るために声を上げ、行動する人々への異常な攻撃と結び付いている。戦禍に苦しむ人々に何十年も奉仕してきた人道支援活動家らが突然、テロリストやそのシンパとレッテルを貼られる。イスラエル政府の政策と行動を批判する人々は脅迫や嫌がらせを受ける。

（批判する相手を攻撃・中傷する

イスラエルのUNRWA禁止法 ガザの命救えなくなる

など）イスラエル外務省が後押しする扇動的なプロパガンダは米欧諸国の目立つ所にある掲示板に躍り、誤情報に満ちたサイトを宣伝するグループの広告も掲載されている。不法占領の残虐性や、完全に免責されている国際犯罪から注意をそらすため、十分な資金が投じられている。

イスラエル政府と関連組織は、UNRWAにハマスが浸透していると主張することで、自らの行動を正当化する。ハマスの方は、UNRWA指導者がイスラエルの占領政策と共謀していると非難し、人権やジェンダー平等を促進するUNRWAの取り組みに反対する。UNRWAは紛争の当事者ではなく犠牲者だ。

UNRWAを中傷し、最終的に解体しようとする試みの目的は単純だ。難民としてのパレスチナ人の地位を消し去り、イスラエル・パレスチナ紛争の政治的解決のために確立された枠組みを一方的に変更することだ。

国際社会は岐路に立つ。一方にはパレスチナ問題に（イスラエルとパレスチナの「2国家共存」という）政治的解答を与えるとの約束をほかにした世界があり、他方にはルールに基づく秩序を保ち、政治的手段で問題を解決する世界がある。

パレスチナ国家が樹立されるまで、ガザの子どもたちが教育も希望もないがれきりの中の生活を強いられることのないよう、UNRWAは重要な役割を果たす。何十万もの少年少女に教育を、何百万ものパレスチナ人に初期医療を提供できる組織はほかにない。

砲火とプロパガンダが世界秩序を構築するという破滅的な未来を回避するチャンスはまたある。多国籍システムとルールに基づく秩序を守り、強化する（UNRWAという）ツールは存在する。必要なのはそれを活用する政治的勇気だけだ。

PHILIPPE LAZARENI氏 1964年、スイス生まれ。2003年国連入り。20年4月から現職。

（掲載：南日本新聞 2025年1月7日）